

研究課題名：	術前因子を用いた腹腔鏡下胆嚢摘出術回避手術に至る予測式の構築 - 後ろ向き多施設共同研究
所属（診療科等）：	公立昭和病院（外科・消化器外科）
研究責任者（職名）：	秦 正二郎（外科・消化器外科 副部長）
研究代表者（所属）	阪本 良弘（杏林大学医学部 消化器・一般外科 教授）
試料・情報の提供責任者： 試料・情報の管理責任者：	公立昭和病院 院長 上西 紀夫
研究期間：	2022年9月29日～2023年3月31日
研究目的と意義：	<p>目的 主要評価項目：術前因子のみから回避手術の予測因子を抽出してスコア式を構築すること。 副次評価項目：内視鏡外科技術認定医の関与の有無別の短期成績、回避手術施行例の短期成績</p> <p>意義 本研究により腹腔鏡下胆嚢摘出術困難症例を術前に予想し、適切な手術計画の立案に役立てらる。また、多施設調査として行うことにより、施設によらない一般的な腹腔鏡下胆嚢摘出術困難例の予想に利用できる。</p>
研究内容：	<ul style="list-style-type: none"> ●対象となる患者さん 2015年1月1日から2021年12月31日までに腹腔鏡下胆嚢摘出術の適応と判断され、腹腔鏡下胆嚢摘出術が施行された症例 ●利用し、又は提供する試料・情報の項目 患者背景（年齢、性別、BMI、併存疾患、腹部手術の既往（上腹部 or 下腹部、開腹 or 腹腔鏡）、臨床症状（腹痛、発熱）、胆膵疾患の既往（急性胆嚢炎（重症度）、急性胆管炎、急性膵炎（重症度））、術前胆膵内視鏡の有無と方法（ERCP、EST、EPBD）、術前胆道ドレナージの有無と方法（PTGBD、PTGBA、ENGBD、ERGBD）、術前画像所見（胆嚢壁径、胆嚢径、結石頸部嵌頓、充満結石、後区域胆管低位合流、胆嚢管分岐異常（副肝管）、胆嚢頸部周囲の炎症所見（なし、軽度、高度））、術前血液検査値（ヘモグロビン値、白血球数、総蛋白、アルブミン、総ビリルビン、直接ビリルビン、γ-GTP、AST、ALT、CRP、CRP 最高値とその日時）。 術者（レジデント（卒後1～5年目）、内視鏡外科技術認定医の関与）、回避手術（開腹移行、Fundus first approach、胆嚢全摘）、手術時間（分）、出血量（mL）、術中合併症、術後合併症、術後在院期間、転帰。）についても調査する ●提供する試料・情報の取得方法 過去の診療録から抜粋 ●試料・情報の利用目的及び利用方法（他機関へ提供する場合は、その方法を含む） 症例報告書を用いて提供。目的・方法は上記の通り。 ●利用する者の範囲（当該研究を実施する全ての共同研究機関の名称及び研究責任者の氏名） 杏林大学医学部消化器・一般外科 鈴木 裕 佼成病院 外科部長 森 俊幸

東京都健康長寿医療センター 外科部長 中里徹矢
関東労災病院 外科・消化器外科 副部長 坂田宏樹

問い合わせ先：

【研究担当者】（研究全般に関すること）

例 1. 研究計画や研究方法に関する資料の入手・閲覧に関すること

例 2. 試料・情報の利用又は多機関への提供を停止する旨に関すること

例 3. 研究により得られた結果等に関すること

氏名：秦 正二郎（外科・消化器外科）

住所：小平市花小金井 8 丁目 1 番 1 号

電話：042（461）0052（代表） FAX：042（464）7912

【ご意見・相談窓口】（研究・診療内容に関するものは除く）

総務課 042（461）0052 内線 2247

受付時間：月～金 9:00～17:00（祝・祭日を除く）

